「祈ること」は「祈られている自分に気づくこと」

犬山・寂光院山主
松平實胤（まつだいらじついん）

千手観音様は私達を祈っていて下さる

寂光院の本尊様は千の手・千の目を持つ「十一面千手千眼観世音菩薩」です。その観音様の本来のお手を「真手」といいますが、それは合掌しておいでになる両手です。私は二十六歳でこの寺の住職になりましたが、はじめはひたすら読経をしておりましたので何も考えていませんでしたが、しばらくしてその御前に立ち尽くして「そうか」と納得した事がありました。私は手を合わせて観音様に祈るのですが、私が背を向けてお堂を出たあとも私の後ろ姿を合掌して祈っていて下さっている、いや、実は観音様は二十四時間三百六十五日いつも祈っていて下さることに気付いたのです。その時「祈ることは祈られている自分に気づくこと」だと、確信しました。



千手観音（本堂）

仏様に祈る

お寺でする仏事法事はすべて「供養」といいます。当然「大護摩祈祷」も供養です。さて、この「供養」ですが、原語であるインドサンスクリット語では「プージャー」といいます。直訳すると「尊敬の気持ちを形で表すこと、感謝の気持を形で表すこと」という意味です。仏様に物品をお供えするとか、仏様に手を合わせて祈ることは「仏様への尊敬と感謝の気持を形」で表すことになります。

仏様への尊敬は世間一般の尊敬ではありません。「絶対信頼」です。仏様に祈ることは帰依する（おまかせする）ということです。未来は常に不確実ですから、不安や恐怖がつきまといますが、絶対信頼の「祈り」は祈る人に「安らかなる心」、「生きる勇気」を与えて下さいます。

仏様への感謝は、今ある自分が「自分以外の人・もの・環境」すべてに支えられ生かされて生きる、目には定かではありませんが「お陰様＝仏さま」に対する感謝の祈りです。感謝の祈りはその人の心を豊かに養います。

仏様から祈られている

私達は折々に仏様に祈るのですが、祈る間のみならず、仏様は「いついかなる時も、どこにいても」私達を祈っていて下さる。いつも仏様は私達に良くなってほしいと祈っていて下さるのではないか。縁あって頂戴した命だから、生きていて良かったと思えるような人生を送ってほしいと祈っていて下さるのではないか。そう気付かせて戴けた時、私は朝夕のお勤めで、「仏様の祈りに応えていく生き方ができるように」と祈っている自分に気付きました。とにかく手を合わせて祈ると、怠惰で傲慢な私にも前向きに生きられる勇気と謙虚さが頂戴できるのです。（しばらくすると、またいつもの怠惰で傲慢な私に戻るところが玉にキズですが、、、）

コロナ渦中の皆様へ

今、緊急焦眉の課題は世界規模で蔓延する「新型コロナウイルス感染の終息」です。当然仏様は「疫病退散、世界安穏」、一刻も早い終息を祈っていて下さいます。当然私達は仏様の祈りに応えていく生き方をしなくてはなりません。

まず第一に、医療防疫の最前線で献身されている皆様方、新薬開発に尽力されている皆様方、社会生活を支えて下さるエッセンシャルワーカーの皆様方への感謝、一方私達は正しい情報に従ってお互いにできる限りの防疫を心がけることが求められます。また油断大敵！とにかく謙虚に前向きにこの難局を乗り越えようという意欲です。

とにかく「祈ることは祈られている自分に気づくこと」、仏様の祈りに応えられるような生き方ができたらいいと思っています。